

# 田口本町 天白社の由来

以前、設楽町田口の本町通りに臥龍堂医院があり、開業していました。道路拡張に伴い家屋敷を少し奥へ下げ、家を建てなおしました。現在は、医院を閉鎖しております。

その家屋敷の裏山が天白山で、天白社が祭られています。その由来は、次のようになっていま



天白社

信濃國諏訪の領主諏訪頼重公は、信濃源氏の嫡流で祖先代々信濃国の一之宮諏訪神社の大祝

であった。

天文十一年七月武田信玄と戦い利あらず家老新九郎頼喜に幼い吾子の将来を託して七月二十日甲府の板垣の屋敷において自刃した。

家老頼喜は、主君の遺児を奉じてひそかに諏訪の地を離れて遙けくも三河の国北設楽郡田口の郷にこもりて、公遺児を新九郎重通と命名して、自分の嫡養嗣子とし、田口における伊藤家の始祖としたのである。

初代伊藤新九郎重通は、諏訪の遠祖諏訪大明神の神霊と亡父諏訪頼重公の尊霊を祀るため一字の社殿を建立し伊藤家累代の守護社として崇敬したのがこの天白社である。

爾来伊藤家代々の父祖は、家訓に従い年々其の祭祀を行い今日に及び第十五代の堂主伊藤龍氏が今回新しく其の社殿を改築し昭和五十一年丙辰年八月二十七日田口町の有識者の多数参列、遷座の大祭を執行する。

祭し神縁を畏みて不省祭典奉

仕の光榮に浴し茲に天白社創立由緒を記して之を後世に伝えるものである。

追而初代伊藤新九郎重通公の墓所は、天白社の参道登口の左側の丘上に在り往者の面影そのまま墓碑石が残されている。



伊藤新九郎重通公墓

現在伊藤家の後継者は、病院での医師を終えて、名古屋市で生活しております。

天白山に登られる機会がありましたら、参拝して下さい。

※この記録は天白社の横の立札に記載されているものです。

(設楽町文化財保護審議会委員)

古瀬 明

赤々と 水面に映える篝火に 鶺鴒の手綱 生きて伸びゆく

今年も一月十六日、皇居の正殿松の間に於いて、恒例の歌会

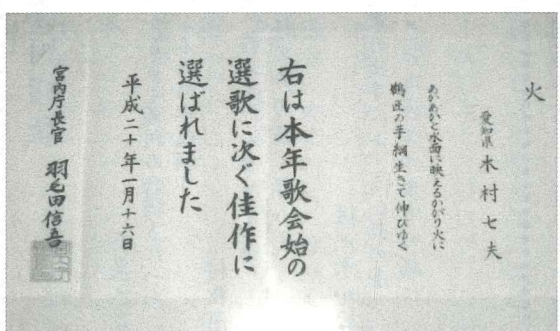
始めが行われた。世界でも数少ない二千数百年間萬世一系で連続と継続された皇室の大切な行事である。古来から行われ現在の形式になったのは六百年程前といわれている。やはり伝統の重みがあり、一般の様子との違いを垣間見た様な気がした。

和歌の三十一文字、俳句の十七文字と、数少ない文字数で森羅万象を言い表す表現力は日本人独特のものであり、世界に誇れる文学だと思えます。

冒頭に掲げた拙歌は、私が長良川の鶺鴒を見た折に詠んだ一首です。今年の御題が「火」なので、初めて応募した所、佳作として採用して戴きました。

秋篠宮妃殿下紀子様も同じ様な歌を詠まれておられ、何方でも考え方は一つだと、皇室も身近に感じられました。やはり全国となるとレベルが高く、もっと勉強して今一度挑戦してみたいと思えます。

木村 七夫



右は本年歌会始の選歌に次ぐ佳作に選ばれました

平成二十年一月十六日

宮内省 羽田信吉